



## できるだけ診療時間内に受診しましょう



- 診療には、医師以外にも検査技師、薬剤師、看護師など多くのスタッフがかわっています。スタッフがそろっている通常診療時間に受診するのが最適です。“早めに救急外来を受診したほうが良い時”にあてはまらない時は、できるだけ、昼間の診療時間に受診しましょう。
- 日頃からかかりつけ医に相談できるようにしておくとう便利です。

## 診察室で伝えること

- 気になる症状はどんなことですか？
- その症状はいつからありますか？
- 今までに大きな病気にかかったことがありますか？
- 薬や食べ物のアレルギーはありますか？
- 家族に同じ様な症状はありませんか？

## 連れていく人

子どもの症状や様子がわかる人が連れていく  
●子どものそれまでの様子がわかる人が一緒に連れていきましょう。  
(熱、食事の状況、飲ませた薬などについて説明することができる人)

## 持っていくと便利なもの

- 母子健康手帳、保険証、診察券、熱の状況を書いた体温表（グラフ）、病気の経過を書いたメモ、おくすり手帳
- 便の状態がおかしいと思うときは、その便をビニール袋に入れるなどしてもっていく
- 飲んでいる薬や名前のわかるもの
- 着替え、タオル、ティッシュペーパー、待ち時間のためのオモチャや絵本など

## 休日・夜間のかかり方

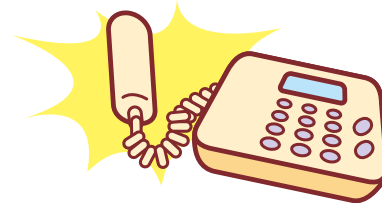


- 休日夜間急患センターや救急指定病院（あらかじめ確認しておきましょう）を利用しましょう。
- 症状が重いと思われる時は119番を利用しましょう。



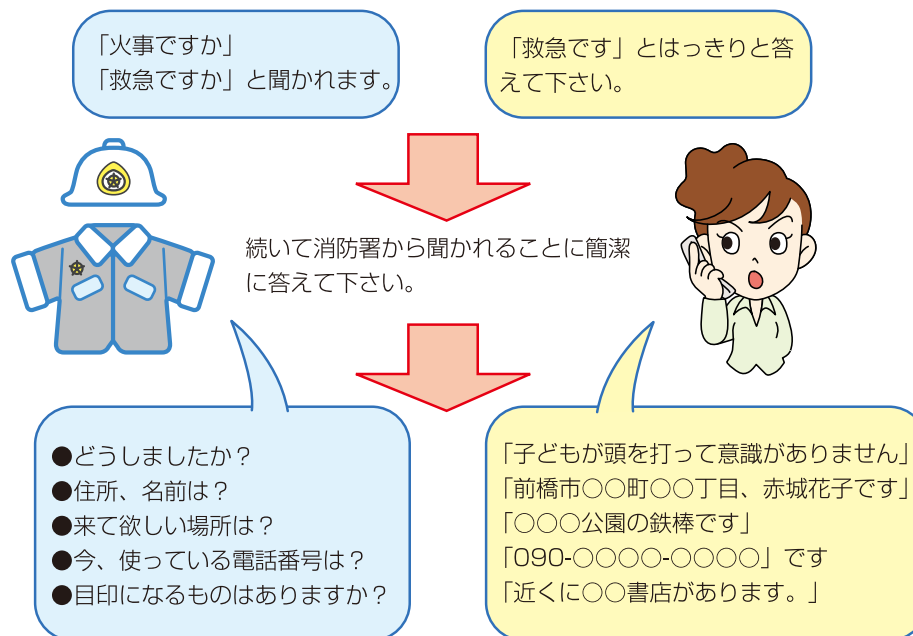
## ●こんな時に救急車を利用して下さい

- けいれんが止まらない
- 呼吸が極めて困難になっている
- 激痛（腹痛・頭痛）がある
- 意識がない
- 出血が止まらない



## ●救急車の呼び方

「119番に」に電話すると…



※応急処置などを指示されたらそれに従います。（人工呼吸、心臓マッサージ等）

「人工呼吸・心臓マッサージ」は、39～40ページを参照して下さい。

※携帯電話で救急車を呼ぶ場合は、所在地を確認すること、目標となる建物などを伝えること、高速道路の場合は上りか下りかの車線を伝えることを心がけましょう。